

暑いのに我ながら地図で下調べもせず、
どうにかなるだろうと、軽い気持ちで来たことが、
大変愚かに感じた。

もう、遅い。

しかし、探すしかない。

この暑い中、歩いて、自分の足で！

本当に、間抜けで、御苦労なこったあ！

あきれても、あきれ切れず、

「ばか、ばか」と思いつつ、

ろばのパン屋さんの、のろのろ歩きのように、

ばかばか、ろばのばん屋さんの、

ろばになった気持ちで、

暑い日差しを避けて、顔を下にして、

足もとを見ながら、首を上下にふりつつ、歩く。

たよりは、ただ、「お寺」と言うこと。

だが、そのお寺が一軒も見当たらぬ。

神社は駅まえにあるが、

かなり歩いても、駅の付近、

どう探しても寺はない！

お寺と言っても、もしかして、

人里離れた山寺のようなものでは？

と、想像した。

神社の中を山道を通り、草むらのほうも歩く。

その時だった、草むらをわけて進んだ時、

急に、チクリと強い痛みが左手に走った。

今度ははつきり言えた